

シンポジウム



Mie University

# 生物資源学研究の最前線

—持続可能な農林水産業をめざして—

参加費無料

日時

平成24年

12月2日(日)

13時30分～16時30分

場所

名古屋市国際センターホール

(地下鉄桜通線「国際センター」駅下車すぐ)

主催:三重大学大学院生物資源学研究科 後援(予定):農林水産省、三重県

三重大学大学院生物資源学研究科では、研究科が取り組んでいる最前線の研究テーマについて紹介するシンポジウムを企画いたしました。「持続可能」、「生態調和型」、「環境保全型」、「スマート」をキーワードとする農林水産業を基点とし、食品産業までを包括的に捉える生物資源関連産業を見据えた研究成果をご紹介します。皆様のご参加をお待ちしております。

## プログラム

- 13:30 開会挨拶 研究科長 吉岡 基
- 13:35～14:15 次世代の生物資源学創出に向けて  
～自然エネルギー・生物資源による地域産業・地域社会の再構築～  
教授 坂本 竜彦
- 14:15～14:55 栽培者と作物を情報で繋ぐスマート農業  
～植物の健康測定の可能性を探る～ 教授 亀岡 孝治
- 14:55～15:10 休憩
- 15:10～15:50 森林からはじまる新しい持続的工業システム  
～木材から機能性分子への新展開～ 教授 船岡 正光
- 15:50～16:30 海洋生物たちが育む「美と健康」  
～人の生活を豊かにする海の贈り物～ 教授 幹 渉
- 16:30 閉会挨拶 副研究科長 松村 直人

参加申込み  
問い合わせ先



三重大学 大学院生物資源学研究科

総務担当 TEL 059-231-9626 E-mail [symp2012@bio.mie-u.ac.jp](mailto:symp2012@bio.mie-u.ac.jp)



生物資源学

# 講演者の紹介



## 教授 坂本 竜彦

tats@bio.mie-u.ac.jp

三重県に生まれ、大学時代は北海道の大自然の中で過ごしました。ひとつぶの砂に、とてつもない時間の、雄大な地球や宇宙の歴史が刻まれていることに気づき、七つの海に出て、巨大な掘削船で深海底の泥を採取、独自装置(TATSCAN)を開発し研究してきました。これからはグリーンイノベーションをテーマに地域社会の再構築に貢献する研究をはじめたいと考えています。

好きなもの: 自家焙煎珈琲、チェロ、モーターサイクル、スキー。

略歴: 平成7年北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。同大学院理学研究科助手、(独)海洋研究開発機構チームリーダー等を経て、平成24年より現職。



## 教授 亀岡 孝治

資源循環学専攻  
食・環境・文化情報学研究室  
kameoka@mie-u.ac.jp

和歌山県に生まれて、田舎から上京した大学時代はオペラ・オーケストラ・美術館・歌舞伎・食文化などを満喫しました。オーロラと-48℃を経験したカナダでのポスドクを経て三重大学にたどりつきました。乾燥・貯蔵・冷凍などの食品工学からスタートした研究は、光を用いた食品・農産物の品質計測などを経て、現在は情報通信技術を用いた科学的農業システムにまで広がっています。

好きなもの: 猫、音楽、スポーツ。

略歴: 昭和59年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了、農学博士。三重大学生物資源学部助手、助教授、教授等を経て、平成16年三重大学理事・副学長、平成19年より現職。



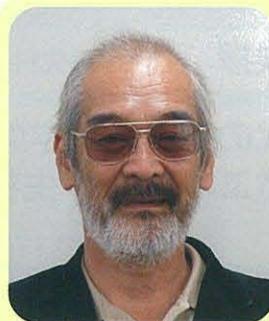
## 教授 船岡 正光

共生環境学専攻  
木質分子素材制御学研究室  
funaoka@bio.mie-u.ac.jp

京都生まれの京都市育ち。実家は京都御所の近く、小中高は二条城のそば。壮大な琵琶湖は山を隔てて直ぐ近く。歴史と文化そして自然の中で“生命”に何かを感じ、迷わずバイオサイエンスの分野へ。樹木とその分子の不思議にとりつかれ今に至る。生態系における人間の存在は余りに小さく、ロマンと奮闘の日々が続く。

好きなもの: 樹木、動物、そしてバイクなどのエンジン有する高速走行物。

略歴: 昭和50年三重大学大学院農学研究科修士課程修了、農学博士。三重大学農学部助手、助教授等を経て、平成9年三重大学生物資源学部教授、平成18年より現職。



## 教授 幹 渉

生物圏生命科学専攻  
海洋生物化学研究室  
miki@bio.mie-u.ac.jp

京都で生まれ、神戸で育ちました。水泳部に所属していた関係で海と親しむうちに、海洋生物の特殊性に興味を覚え、とくに海洋生物が育む成分を人のために役立てることはできないかと考えるようになりました。以来、30年間以上にも渡って海洋生物の成分と格闘しています。

好きなもの: スノーバダイビング(インストラクター)、スキー(1級)、音楽鑑賞、楽器演奏、写真撮影、囲碁(六段)、将棋(四段)、暴飲暴食・高歌放吟…。

略歴: 昭和60年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了、農学博士。サントリー(株)先進技術応用研究所部長、(株)M&K代表取締役社長等を経て、平成22年より現職。

## シンポジウム会場アクセス情報

- 名古屋駅から  
(東海道新幹線・JR東海道線・JR関西線・JR中央線・名鉄本線・近鉄線・市営地下鉄東山線・市営地下鉄桜通線・あおなみ線)徒歩7分です。
- 地下街「ユニモール」を直進していただくと、地下鉄桜通線「国際センター駅」及び名古屋国際センタービルの地下とつながっています。  
(<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/aramashi/nicaccess>)